

○中讃地域は生産コストの上昇や生産者の高齢化に加え、単価の低迷により、花きの栽培面積や生産額が伸び悩んでいる。

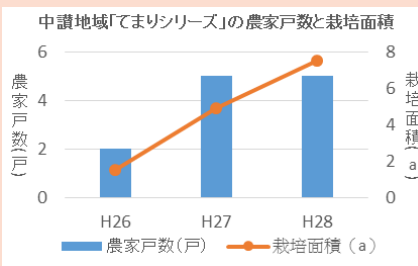
○このため、普及センターでは、生産コストが抑えられ、かつ実需者ニーズの高い品目であるランキュラスの導入および生産拡大促進を図るとともに、関係機関と連携して、栽培技術の高位平準化や販売促進を支援。

○その結果、生産者戸数および栽培面積が増加。また、実証ほの設置やPR活動により、生産技術の向上や幅広い周知効果につながった。

具体的な成果

1 生産者の増加と栽培面積の拡大

■ランキュラスの導入推進を行った結果、生産者数が3名増加。(H26～27)



■巡回指導や生産者どうしのほ場見学による技術習得や意識向上に伴い個々の栽培面積も増加。(H27～28)



現地ほ場巡回の様子

2 新規生産者の生産技術の向上

■現地実証試験を通して、防除対策や自家増殖球根の貯蔵方法に関する従来の成果を確認でき、品質や収量が向上。

3 認知度の向上および消費拡大の推進

■POPの設置により消費者や市場関係者の認知度が向上。
■スポーツイベントでの花材提供が新聞等のメディアに取り上げられ、幅広い周知効果を得た。



スポーツイベントにおける会場内飾花

普及指導員の活動

平成26～27年

■ランキュラスの導入推進

- ①品目転換を検討している生産者を対象に個別推進を行う。
- ②JA担当者と連携し、部会の総会等を通じて、ランキュラスの紹介を行う。

平成27～28年

■新規生産者の支援体制の構築

- ①講習会や巡回指導を実施。
 - ②生産者が他の生産者の栽培ほ場を見学する機会を設ける。
- 実証展示ほの設置
立枯性病害の防除対策や球根の自家増殖および貯蔵技術について、現地試験を実施して検討。

平成26年～28年

■認知度向上および消費拡大の推進

- ①地元開催のスポーツイベントにおいて、飾花等にランキュラスを使用。
- ②紹介用POPを作成し、産直施設等に設置。

普及指導員だからできたこと

・巡回指導等を通じて、各生産者の栽培体系や栽培方法に応じた効果的な指導を行う体制を整えることが可能。

・日頃から連携しているJA、試験研究機関、市行政等の関係者を結び付け、効果的な病害対策やPR活動を進めることができた。

県オリジナル品種ラナンキュラス 「てまりシリーズ」の普及・拡大に向けて

活動期間：平成26年度～継続中

1. 取組の背景

中讃地域では、キクやカーネーション、鉢花など多様な品目で花き施設栽培が行われている。しかし、近年は、生産コストの上昇や生産者の高齢化に加え、単価の低迷により、花きの栽培面積や生産額が伸び悩んでいる。

そうした中であって、ラナンキュラスは全国的に消費者人気が高まっており、収益性が高く、比較的低温でも栽培が可能であることから、冬季の有望品目として注目されている。また、本県では、県オリジナル品種「てまりシリーズ」の育成により他産地との差別化を行うことができ、かつ優良種苗生産体制の構築により種苗の安定供給が行われていることから、燃料費や種苗費等の生産コストが抑えることができる品目として栽培面積が増加している。当地域でも平成26年度より導入されているが、先行産地と比較して生産者間の技術レベルの差が大きく、品質や収量が安定していない。そこで、ラナンキュラスの導入および生産拡大を図るとともに、栽培技術の高位平準化や販売促進に関係機関と連携して取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

1 新規栽培者の掘りおこし

新規生産者の獲得に向けた推進資料を作成し、燃油価格の高騰により冬季の栽培を休止している生産者や収益性の高い転換品目の導入を検討している花き生産者を対象に、個別推進を行った。加えて、JA担当者と連携し、部会の総会等を通じてラナンキュラス「てまりシリーズ」の紹介や栽培の概要および市場動向の説明等の取組みを行った。

2 生産技術の高位平準化に向けた取組み

産地全体の技術レベルの向上を図るため、個別指導に加えて、定期的に講習会や合同巡回などを開催して、生産技術習得の支援体制を整えた（図1）。

また、病害虫防除所や農業試験場と連携して、重要病害であるラナンキュラス株枯病対策や球根の自家増殖および貯蔵技術について、現地実証試験を実施した。



図1 現地ほ場巡回の様子

3 イベント等を通じたPR活動の推進

県内外への認知度向上や需要拡大に向け、当地域で開催される全国規模のスポーツイベントにおいて、主催する市の担当者と連携し、会場内の飾花やビクトリーブーケにランンキュラスに地元産のランンキュラスを提供してPRした。

また、JA 担当者と協力してランンキュラスの紹介用POPを作成し、全国の市場関係者や卸売業者が集まる商談会や産直施設に設置して、販売促進の支援を行った(図2)。



図2 地元開催のスポーツイベントにおける会場内飾花(左)および紹介用POPの設置(右)

3. 具体的な成果(詳細)

1 生産者の増加と新規生産者の技術習得に伴う栽培面積の拡大

推進活動を行った結果、平成27年度に生産者数が3名増加した(図3)。

また、生産技術の早期習得に向けて、栽培の各段階における講習会の実施や、農業試験場、専門普及指導員、JA 担当者と連携した巡回指導を通して、個々の栽培レベルやほ場環境に応じた栽培体系の確立を目指した。加えて、生産者が他の栽培ほ場を見て回る機会を設けることで、生産者間の情報共有や意識向上を図った。これらの取り組みにより、平成28年度には、個々の栽培面積が拡大した。

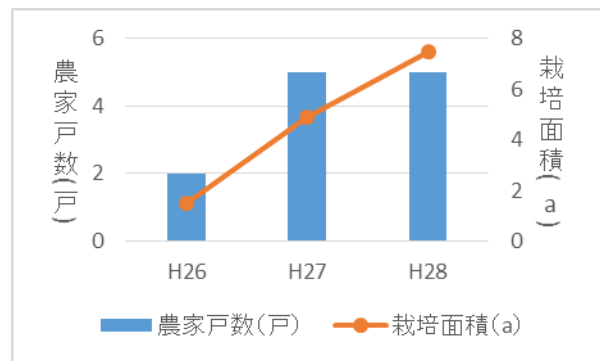


図3 ランンキュラス農家戸数、栽培面積の推移

2 実証展示ほの結果に基づく生産技術の向上

病虫害防除所と連携して、ランンキュラス株枯病の防除対策に向けた現地試験を行った結果、定植前の薬剤浸漬により発病率が減少し、収量や品質が向上した。また、球根の自家増殖過程で発生する腐敗等の球根ロスを防ぐために実証ほを設置したところ、球根掘り上げ時の洗浄、乾燥、貯蔵方法の改善により球根腐敗率が減少することが分かった。生産者が現地ほ場で結果を確認することで、理解や共通認識がより深まり、生産技術向上につながった。

3 認知度の向上および消費拡大の推進

PR活動により消費者や市場関係者等の関心を高めることで、認知度の向上や所得向上支援に努めた。地元開催のスポーツイベントへの花材提供は、新聞等のメディアにも取り上げられ、幅広い周知効果が得られた。

4. 農家等からの評価・コメント（丸亀市K氏）

冬季の補完品目として、ラナンキュラスを導入した。その結果、燃油代の削減および冬季の収入増加により、経営安定につながった。

5. 普及指導員のコメント（中讃農業改良普及センター 技師 浜田佳代子）

巡回指導等を通して、各生産者のほ場環境や栽培体系に応じた効果的な指導を行う体制を整えることができた。また、日頃から連携している JA や試験研究機関、市行政等の関係者を結び付け、効果的な病害対策や PR 活動を進めることができた。

6. 現状・今後の展開等

これまでの取組みの結果、栽培面積や農家戸数は増加傾向にあり、今後も継続して新規栽培者の掘り起こしに努めることにより、面積の増加は十分に見込めると考える。

しかし、催芽技術の向上をはじめ、改善すべき技術課題も多い。また、規模拡大のネックとなる収穫作業軽減対策など、労働環境の改善も重要な課題である。このことから、今後も関係機関と連携し、生産者支援を強化していくことが必要である。